

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

- 1 会議名 平成29年度 第1回 安曇野市上下水道事業経営審議会
- 2 日時 平成29年9月21日(木) 午後1時30分から午後3時40分まで
- 3 会場 本庁舎 共用会議室307
- 4 出席者 飯沼会長、丸山副会長、赤羽委員、臼井委員、大江委員、小松委員、  
保尊委員、宮澤委員、望月委員、森重委員
- 5 市側出席者 金井上下水道部長、高嶋経営管理課長、水谷上水道課長、三澤下水道課長、  
小松管理係長、横山工務係長、大林維持係長、山本維持管理担当係長  
麻田整備担当係長、飯田庶務担当係長、中島庶務担当係長
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 2人
- 8 会議概要作成年月日 平成29年9月25日

協議事項等

○会議の概要

- 1 開 会
- 2 委員委嘱
- 3 市長挨拶
- 4 委員及び事務局員の紹介
- 5 会長・副会長の選出
- 6 議 事
  - (1) 安曇野市水道ビジョンについて
  - (2) 安曇野市下水道事業経営戦略について
  - (3) 平成28年度安曇野市上下水道事業決算について
  - (4) その他
- 7 閉 会

○議事の概要

- (1) 安曇野市水道ビジョンについて

会 長：1番、安曇野市水道ビジョンについて事務局から説明をお願いします。

(資料に基づき事務局から説明)

<質疑>

会 長：ただいまの説明内容について質問があったら、委員の皆さんの発言をお願いします。

委 員：アセットマネジメントとポリスリーブ巻付はどういうものか説明をお願いしたい。

事務局：安曇野市水道ビジョンの41ページにアセットマネジメントの説明がある。47ページあたりを見てもらうと管だと40年が耐用年数である。それで更新していくと一時的に莫大な費用がかかるので、更新時期を延ばし、平準化させて更新していく計画を立ててある。全国の平均でダクタイル鋳鉄管で言えば、40年が60年くらいもつという統計がある。ポリスリーブ巻というのは、ポリエチレンの袋のようなものを鋳鉄管に巻き付けて一緒に埋めることで20年延命措置が図れるものである。寿命を延ばしてその間に更新を穏やかにやっていきたいと思っている。

会 長：他にあるか。

委 員：有収率が悪いのが経営の課題という話があった。全国に比べてこの地域は、非常に水圧が高く感じる。今はそうでもないが、昔から蛇口を開けると水が跳ねるほど水圧があった。そこまで水圧が高くないともいいと思う。水圧が低くなると水の出が悪いと苦情があると聞いた。水圧が高いと漏水も多くなる。市全域の中でどの辺の有収率が悪いとか、漏水のエリアとそこの水圧との関係はどうかという資料があって検討されていると思うが、漏水現象のところをつぶしていくと経営全体がよくなるのではないか。

事務局：今の話のとおりだと思う。事業統合させてもらった中で今までは5つの事業体でそれぞれに水源をもってやってきている。水源から配水池までの高さが決まって水圧がかかっている。統合の利点としては、旧町村の境で加圧しているところもあるが、管網計画によって他の地域から水を回せるようになる。管網計画を立ててこれから進めていく段階に入ったばかりである。市内の配水管は、1,000キロぐらいあり、その約3分の1が塩化ビニル管である。耐震性もなく、昭和50年、60年代に布設されたもので、当時の管の材質もある。今は布設する時にクッションとして砂をひいているが、当時は土や石の上にそのまま塩化ビニル管を布設していたということで、そういうところからも破管が多い。現在は塩化ビニル管を中心に布設替えを行っているのと明科、穂高から漏水調査を始めている。漏水箇所を発見し、それを手当てしている。水道ビジョンの中でも明科については、10年以内にすべての塩化ビニル管を取り替えるよう進めている。

委 員：具体的な目標漏水率はあるか。

事務局：資料の2ページの⑩、右側に有収率の欄がある。平成27年度の有収率は77.9パーセントでビジョンの中での目標は85.4パーセントである。有収率の改善を図るべく老朽管の布設替え等を進めている。28年度の有収率79.6ということで1.7ポイントの改善が図れた。今日の審議会の中では、ビジョン全体の話を見せてもらうために資料を用意した。今後の審議会の中でこちらで説明したいことと委員の皆さんが聞きたいことがマッチングするわけではないと思うので、委員から質問のあった有収率の部分については、次回の審議会のおりに資料を用意して有収率の改善に向けてこのようなことを進めているといった説明をしていきたい。地区別の数字もあるので確認してもらいたい。

会 長：有収率の分母と分子を教えてほしい。

事務局：水道ビジョンの22ページの⑦を見てもらいたい。皆さんのお宅で量水器で量った水量を配水池から出た配水量で割ったものになる。

会 長：他に何かあればお願いしたい。

事務局：補足であるが、資料1ページの左下に基本目標がある。厚生労働省で掲げたのは、安全、強靱、持続の3つだが、市では信頼というのを加えてある。かつて水が濁って迷惑をかけた経過があり、反省や対策をする中で信頼される水道づくりをしなければいけない。皆さんと共につくっていきたいという信頼の部分を加えて水道ビジョンを構築したということである。そういう部分も力を入れたい。

会 長：他に質問があったらお願いしたい。(質問無) 無いようでしたら、次の議題に移りたいと思う。

## (2) 安曇野市下水道事業経営戦略について

会 長：2番、安曇野市下水道事業経営戦略について事務局から説明をお願いします。

(資料に基づき事務局から説明)

<質疑>

会 長：ただいまの説明内容について質問があったら、委員の皆さんの発言をお願いします。

委員：水洗化率が今81パーセントということであった。浄化槽を持っている人はどのような状況なのか。

事務局：整備が済んでもなかなか接続してもらえない方は、浄化槽で水洗化している方、水洗化していなくても高齢化や低所得者によって接続工事に踏み切れないという方が多いと思っている。今年度も穂高の山麓地帯は環境整備を進めているので、これから接続してもらえる方も多いと思う。これからは、接続促進のほうに力をいれていかなければいけないと考え、今年度から助成制度について近隣市町村も調査しながら、検討している。

委員：今の質問の関連で助成金を市のほうで力を入れてもらいたいという希望がある。普及率を高めるようにしてほしい。下水道のマンホールの蓋が磨耗していたり、段差ができていことがあるがパトロールはどうしているのか。

事務局：通行に支障をきたすようなところが見受けられるのも事実である。市としてもこれからは維持管理に力を入れていかなければならないと感じている。マンホールや管路のパトロールは、計画的に委託業務に出して進めている。安曇野市は広いので、毎年、点検管理がすべて一気にできるわけではない。10年に1度くらいの頻度になってしまう。道路上で危険が生じるようなものは、電話や建設課の道路パトロールで状況を伝えてもらい、その都度対応している。

会長：他に質問はあるか。

委員：先ほど水洗化率の話があった。下水道をつなげてから後の下水道料金と今の浄化槽の維持やバキュームカーの費用といったランニングコストを比べたらどちらがいいのか。下水道につなげたほうが維持費は安くなるってことがアピールできれば、ちょっとした助成でつながっていくと思う。実は余計にお金がかかるとなれば、やらないと思う。

事務局：浄化槽に関しては、浄化槽の大きさや使用状況によってだいぶ違う。浄化槽の場合、年1回の法定点検、浄化槽組合への負担金や使用状況にもよるが浄化槽の清掃に費用がかかる。また、浄化槽にはブロワーというものが付いていて数年に1回交換が必要である。下水道は使用料だけだが、使用状況によって浄化槽の年間費用は変わるので、一概にいくらと言うことは言えない。家族構成にもよる。

委員：今みたいな話だと低所得者や高齢者の方がやらないということになってしまう。人数が多いからメリットがあるとかアピールを工夫したほうがいい。

事務局：研究しながら、これから本格的にそういう方たちにアプローチしていかないと接続につながらないと思っている。

委員：ただお願いしますではなく、こういうメリットがあるとか、こういうことをしなくて済むようになるっていうことが必要だと思う。

事務局：言われたとおりだと思う。

会長：重要なテーマだと思うので、今後も審議会の中で継続して討論を重ねていきたい。他に質問はあるか。

委員：国道147号線沿いの穂高で飲食店をやっている。昔、バイパスが出来たときは水道管が入っていなかったの、個人で水道をひいてきたが、途中のタクシー会社で水を使うと水量が減ってしまう。水道管の布設替えは市のほうでしてもらえるのか。

事務局：上水道課に来てもらえるとありがたい。図面を集約してある地図情報システムがあるので、図面が無い場合もあるが図面を見ながら話をしたい。基本的な知識としてメーターから家の部分が自分で管理する部分という形である。他の地域でもそうだが、昔は個人で掘って埋めた水道を町や村で引き取ったということもあろうかと思う。本管の部分なのか、個人の給水の部分なのかによって区分が決まっている。本管として他の方も何軒か取られているという形であれば、市のほうの対応かと思う。

委員：2軒だけが使っている。

事務局：今の話だけで判断することはできない。また、相談してもらいたい。こちらも  
図面等を用意する。申請時の寄付の状況についても確認する時間がほしい。

会 長：市民の切実な声としてくみ取ってほしい。市民目線で質問してもらっていい。

委 員：アクアピアの祭りを楽しみにしている。子供が大きくなってくると顕微鏡で覗  
くとか、どう処理されているとか興味が年々増していく。お祭りを大々的にや  
るのは大変かもしれないが、周りの松本市や大町市の教育委員会の方から見  
ると安曇野市は処理場が身近にあって子供たちがすぐに行けていいと言われる。  
高学年や中学生になっても興味を持っている子供はいると思うので、地道にコ  
ツコツ長く子供たちに教えることがとても大事だと思う。恵まれた安曇野市に  
あるアクアピアを使ってほしい。

委 員：少しでも市民のみなさんにアピールしていかなければいけないと思っている。  
安曇野市の処理場も明科にある。そちらは明科の小学校が授業の一環で施設見  
学には来ている。

会 長：主婦やお母さんの目線で意見してもらおうのも審議委員会の役割と思う。お祭り  
があるのを知らなかったが、今度はぜひ行ってみたい。いつやるのか。

事務局：過ぎてしまったが、9月9日に開催し、1,000人以上の方に来てもらった。

委 員：イベントの多い時期なので、少ない時期に開催してもらいたい。子供のスポー  
ツの関係や文化祭が9月はとても多い。

事務局：9月10日が下水道の日ということで全国的にその前後に開催して、少しでも下  
水道に対しての理解を深めてもらっている。

会 長：他に下水道事業経営について質問、意見があればお願いします。

委 員：下水道で落とす手前に網が付いているが、目が細かすぎるのか、けっこう詰ま  
ってしまって上に排水が出てしまう。いいゴミ取りとか網目のものはないか。

事務局：グリストラップは油を取る装置で飲食店には付けてもらうことになっていて一  
般家庭にはない。汚れた水が流れると管が閉塞してしまう。油によって管が詰  
まったり、小さくなるので、飲食店やガソリンスタンド、工場などは付けても  
らっている。理髪店はまた違うものが付いている。

委 員：業種によって違うのか。

事務局：違う。作っているメーカーによっても差があるので、知り合いの設備業者に相  
談してもらいたい。細目に点検掃除をしてもらって取り除くしかない。事業所  
には計画的に立ち入り検査をして管理状況が悪いようであれば指導をしてい  
る。

委 員：2ページの具体的な取り組みの流域下水道建設負担金が増減で動いているが、  
計画的には何を予定しているのか。

事務局：県の流域下水道事務所の事業計画に基づいて計上されている。これからは施設  
の長寿命化、耐震化を図っていくための事業と聞いている。現在やっているの  
は中央監視装置の更新。これから徐々に処理場やマンホールポンプの耐震化等  
に移行していくと聞いている。

会 長：他にあるか。(質問無) 無いようでしたら次に進みたい。

### (3) 平成28年度安曇野市上下水道事業決算について

会 長：3番、平成28年度安曇野市上下水道事業決算について事務局から説明をお願い  
する。

(資料に基づき事務局から説明)

<質疑>

会 長：ただいまの説明内容について質問があったら、委員の皆さんの発言をお願いす  
る。

委 員：資料2の4ページの資本的収支資金不足額が平成29年度から並んでいるが、平  
成33年度が内訳の計の額とあっていない。

事務局：確認させてもらって次回、説明する。

委員：これだけ借金が多いが、借金はどこからしているのか。金利のちょっとした違いで借金の額も相当変わるのではないか。

事務局：民間の方々、借りる金融機関によって利息が違ったりするが、自治体の場合は公的な資金を借りるとというのが基本になっているので、自由に選べない。繰上償還して安いところにもできない。

委員：アクアピアの維持費は市にも影響があるとみてよいのか。

事務局：維持費は費用として計上している。施設利用権を固定資産のほうに計上している。

委員：造った時のお金ということでよいか。

事務局：そうである。

会長：他にあったら願います。

委員：減価償却費は何年償却か。

事務局：施設によって違う。

事務局：管渠は50年である。

会長：概略を頭に入れておいてほしいという説明であった。こんなところでよいか。  
(質問無)

#### (4) その他

会長：それでは、4番目のその他について事務局から説明をお願いします。

事務局：今日は水道ビジョンと下水道事業経営戦略について説明をした。2回目の会議を11月6日、月曜日の午後に開催したいと思っているので、予定の確認をお願いしたい。よろしいか。

委員：よい。

委員：どういふことをどういふ形で進めていく審議会にしたいのか。

事務局：今日、全体の話をしたので、次回、施設を見てもらいたいのと今年度に事業の取り組み状況や来年度に向けてこのような計画があるという説明をしていきたい。諮問事項にも入っていかなければいけないが、今回と次回は上水道、下水道の事業の状況を知ってもらいたいと思っている。その後、審議会では何を諮問し審議してもらうかは、市長選後に話していきたい。今日は一方的に説明したが、前もってこういう資料がほしいとか、こういう説明をお願いしたいというものがあれば、事務局に言ってほしい。次回については、施設を見て回るということと今年度の具体的な取り組みを説明するような形で進めたい。諮問事項はその次あたりからということで考えている。

委員：上水、下水、1つになっているが、協議事項はそれぞれ同時進行でやっていくのか。

事務局：具体的に言うと課題の中のどれかということになる。水道で言えば料金統一のことがある。下水道は助成制度のことがある。

会長：この審議会の方向性について確認しておきたいことはあるか。

委員：今日、配られた水の製造が岐阜県の業者であった。安曇野市の業者を使ってもらえなかったのか。

事務局：合併5年目の時にペットボトルで水を出そうという話があって、工業会のメンバーにも話をしたりしたが、当時の理事者等の判断で断念した経過がある。このペットボトル自体は合併10年を記念した各部の取り組みとしてやった。防災の関係でも役に立たないといけないということであった。市内業者は過熱方式で期限が2年であった。過熱の場合、2年経つと空気が入ってきて水が蒸発して雑菌が入る恐れがある。こちらは5年でセラミックフィルターを通して細菌をろ過してある。単純に期限だけを見れば、缶だと10年とかがあるが味がよくないということである。岐阜県関市の第3セクターの会社に製造してもらったが、自前で水を出そうとすると施設費が5億円かかる。売るわけではなく非売品である。5地域の水の飲み比べをして堀金の水がなめらかでおい

しいという票が入った経緯があって採用した。本格的に売るとなれば、地元の業者に声をかけてやりたいと思う。まちひとしごと創生事業の関係で都会から来る方に知ってもらいイベントで配ったりしている。

事務局：理事者からは水を売って稼げという話もあるが、本業しっかりやっていくということでそこまでの余裕はないと思っている。委託で作っても高いので、いい商売にはならない。これはピーアール用ということである。

会 長：他に審議会の運営について質問等あればお願いしたい。事務局から他に何かあるか。

事務局：ない。

会 長：最後に副会長から閉会のあいさつをお願いします。

副会長：短い時間であったが、有意義な質問が出されていた。上下水道事業の運営がスムーズにいくようにみなさんとまた話し合っていきたい。

(閉会)